

シアナミド液剤のブルーベリーへの登録拡大に向けて

表 シアナミド液剤の散布濃度が開花期、花芽枯死、収穫期及び収量に及ぼす影響

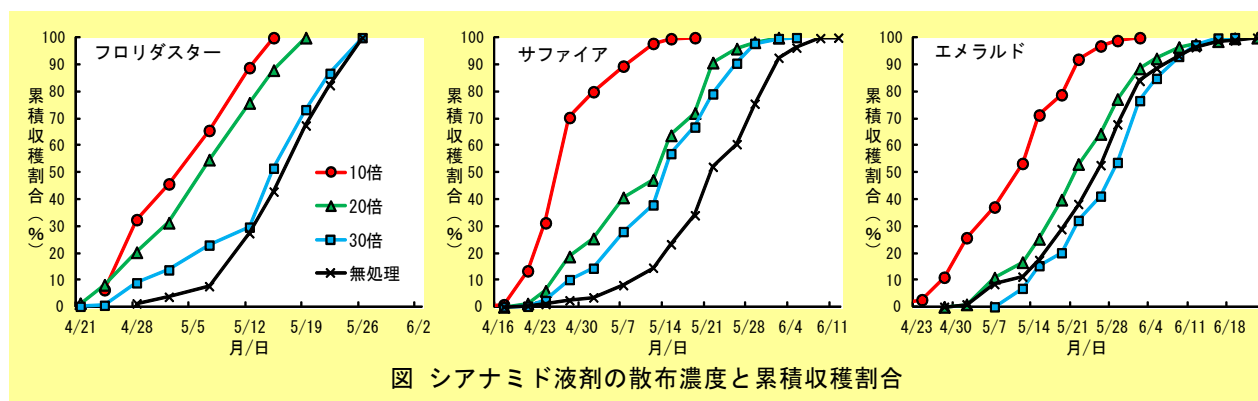
品 種	処理区	開花期(月/日)		花芽枯 死率(%)	収穫期(月/日)		収穫数 (個/樹)	収穫量 (g/樹)
		始	盛		始	盛		
フロリダスター	10倍	2/ 8	2/23	27.8	4/27	5/11	302	713
	20倍	2/ 8	2/25	2.2	4/28	5/14	704	1,462
	30倍	2/13	3/ 1	0.3	5/ 6	5/21	637	1,361
	無処理	2/25	3/16	0.0	5/11	5/22	598	1,407
サファイア	10倍	1/29	2/13	46.9	4/23	5/ 3	259	609
	20倍	1/29	2/13	6.4	4/29	5/21	847	1,625
	30倍	1/30	2/17	4.3	5/ 5	5/23	746	1,180
	無処理	1/30	2/15	0.0	5/13	5/31	951	1,611
エメラルド	10倍	1/30	2/ 8	27.1	4/30	5/20	703	1,596
	20倍	1/30	2/13	2.1	5/13	5/30	1,084	1,879
	30倍	1/30	2/23	1.0	5/19	6/ 4	980	1,543
	無処理	2/11	2/23	0.0	5/16	6/ 2	1,099	1,993

注1) 2013年11月13日にシアナミド液剤の各濃度液を全面散布後、7.2℃以下の積算が300時間に到達した12月16日に無加温施設栽培を開始した。

2) 開花期：始(20%)、盛(80%)

3) 花芽枯死率：枯死花芽数/花芽数×100、2014年2月28日時点

4) 収穫期：累積収量に対し、始(20%)、盛(80%)



ブルーベリーは輸入物が少なくなる4～5月に高単価で取引されています。

これまでの果樹試験場の調査結果から、ブルーベリーは7.2℃以下の積算が短いものでも300時間程度必要とされており、無加温施設栽培では5月上旬からの収穫となります。また、シアナミド液剤の散布により、休眠打破されることで開花が促進され、さらに収穫期が早まることが明らかになりましたが、現在、ブルーベリーでの登録がありません。

そこで、ブルーベリーへの登録拡大を目指し、シアナミド液剤の散布濃度と開花期や収穫期等について検討しました。

その結果、開花期の促進効果は「フロリダスター」と「エメラルド」で認められました。



写真 花芽の枯死状況(エメラルド)

収穫期は、3品種ともシアナミド液剤の10倍液散布により、最も早くなりました(表、図)。しかし、花芽の枯死(写真)が多く発生し、収穫量も少なくなったことから20倍液散布が適当と考えられました(表)。

今後は、適用拡大に向けてさらにシアナミド液剤の効果的な散布時期などを明らかにしていく予定です。

(果樹試験場 松下本樹 088-844-1120)